

授業の具体的展開例

1000 の数の見つけ方

T : どのようにして数えましたか。
C : 100 のかたまりを数えました。(説明)
T : なぜ、これが 100 だと分かったのかな。
C : 横にも縦にも 10 個あります。
T : 10 が 10 個あることを見つけた人？
10 が 10 個あるから、これが 100。
100、200、300、400、500・・・900、1000。
1000 ってどう書くのが知っている人、数字で書いて。
C : 1000 です。
T : どうですか。それでは、1000 という数を調べます。
この 100 をブロックにかえたいと思います。
100 のブロックは、どれですか。
これが何枚いりますか。
100 のブロックは、位取り板のどの部屋に入りますか。
C : 100 の部屋に入ります。
T : 全部この部屋にいていいですか。
C : だめです。
T : なんで、いけないのですか。
C : 9 枚まで、なので。
T : どの位ができますか。
C : 1000 の位です。

1000 は、900 にあといくつ足した数か

T : 1000 は 900 にあといくつ足した数ですか。
C : 100 です。
T : なぜ 100 だと分かりますか。
C : 100、200、300、400・・・900、残りが 100 です。
T : 100、200、300、400・・・900、ここで 900 残っているのは 100 だから 900 にあと 100 ですね。
T : 1000 は 10 を何個集めた数ですか。
C : ここが 10 だから 10、20、30・・・と数えます。
C : ぼく、ちがう。100 は 10 を 10 個集めた数だから、10、20、30・・・
T : 10 ぐくりでわかりますね。
答えは 100 個。

教材・教具



CLICK

「活用」の力を育てる評価の工夫

児童は、本時で初めて 1000 という数を知る。10 のまとまりを使って数えた体験をもとに、100 のまとまりに気付かせ、100 のまとまりが 10 あることに着目させる。具体的には 100 のまとまりがいくつあるかを線で囲むという算数的活動を通して調べさせる。

本時では、1000 という数を知った後、1000 という数の構成を学習する。印で表した 1000 の表を参考に、100 のまとまり、10 のまとまりを意識させ、1000 という数がどんな数であるかということが操作の中で理解できるようにする。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、これまでの学習で使ってきた 100 のまとまり、10 のまとまりを意識することができれば、1000 という数に気付く。

「活用」の力を見取る具体的な分類としては、

100 のまとまり、10 のまとまり、1 のまとまりを 1000 の数の中で見つけることができ、それらがいくつ集まって 1000 になっているのか、また、1000 よりも小さい数について、あといくつで 1000 になるのかということが理解できる。

100 のまとまり、10 のまとまり、1 のまとまりのどれかに気づき、それらがいくつ集まって 1000 になっているのか、また、1000 よりも小さい数について、あといくつで 1000 になるのかということが理解できる。

全て説明を聞き理解できる。
説明を聞いても理解できない。

が考えられる。

の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。次時までには の状態になるように、適用問題の場面を充実させる。

HOME

本時の流れへ